

施策評価（令和2年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和2年8月25日

1 施策のねらい（施策の目的）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人との結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

							施策の方向性(2)	
代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
芸術・文化施設をセカンドスクール的に利用した小・中学生の割合(%)	目標			28.0	29.0	30.0	31.0	
	実績	26.6	23.7	24.3	18.6			
	達成率			86.8%	64.1%			
出典：県生涯学習課調べ	指標の判定			d	e			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	- 令和元年度は、前年度実績からマイナス5.7ポイントと減少しており、対象となる4施設（美術館・近代美術館・博物館・農業科学館）全てで利用校・利用人数とも減少した。 - 教職員の業務改善や学習指導要領の改訂を背景に、校外学習を含む行事の精選・見直しが加速していることが大きい要因と考えられる。特に、令和元年度は春の十連休の影響で、多くの学校がこの時期の校外学習を見送ったことから、4～7月の減少が顕著になっている。 - 施設側としても、令和元年度は子ども向けの展覧会が少なかったことや、開催時期と校外学習のシーズンにズレが生じたことも要因と考えられる。 - 前年度から引き続き、学校への広報などに努めているが、現状では利用率向上に結びついていない。							

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 $\geq$ 100% 「b」：100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 「c」：90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(1)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
生涯学習支援システムにおける生涯学習講座の登録件数(件)	目標			2,100	2,300	2,500	2,800	
	実績	1,569	1,570	2,351	2,785			
出典:県生涯学習課調べ	達成率			112.0%	121.1%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	- 令和元年度は、前年度に続き目標値を大きく上回る実績となった。 - 実績値2,785件の約4割は、市町村の担当者による登録である。直接登録を行っていない市町村からも情報提供の面で協力を得ることができた。 - 市町村職員向けの研修会の開催や、各種会議等で市町村に周知を図ってきた成果と考えている。							

							施策の方向性(1)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
県立図書館司書による県立学校図書館への訪問支援等の実施件数(校)	目標			20	25	30	30	H28実績値11
	実績	10	10	20	25			
出典:県生涯学習課調べ	達成率			100.0%	100.0%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	前年度に引き続き、県立図書館の学校図書館支援についての周知を図るための計画的な訪問を実施した。また、令和元年度は、個別の相談に応じる要請による訪問も行い、計25校を訪問し目標を達成した。							

							施策の方向性(2)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
国・県指定等文化財の件数(件)	目標			767	770	773	776	
	実績	758	764	771	770			
出典:県文化財保護室調べ	達成率			100.5%	100.0%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—		
		東北	—	—	—	—		
	- 県指定文化財については、新たに有形文化財1件及び天然記念物1件を指定したが、有形文化財1件及び天然記念物2件の指定を解除した。そのため、全体として1件の減となった。 - 国登録有形文化財(建造物)について、市町村が見出した候補物件を、文化庁調査官来県時に下見してもらう等、国や市町村との連携を密にしながら取り組んでいる。令和元年11月の国文化審議会での答申を受けた県内7件の登録については、4月3日に官報告示されたため、2年度の実績値となる。							

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進【生涯学習課、総合政策課】	指標	成果①②
- 生涯学習支援システムの登録件数は前年度から434件増加して2,785件となり、目標（2,300件）を達成した。2,785件の約40%にあたる1,129件は市町村による入力であり、市町村への周知やシステム研修会の開催によって情報提供を充実させることができた。システムの講座情報へのアクセス数は101,200件（月平均8,433件）＜＋45,844件（月平均＋3,790件）＞であった。 - 生涯学習センターによる「あきたスマートカレッジ」は延べ3,067人＜△814人＞が参加した。「地域の課題解決」や「障害者の生涯学習」など時宜に沿ったテーマを取り上げた。学びを生かした地域づくりの機運を醸成することに主眼を置き、趣味・教養講座を中心とした市町村や民間の講座との棲み分けを進めた結果、利用人数は減少したが内容面では充実を図ることができた。 - 読み聞かせボランティア養成講座を県内3地区で実施することにより、学校や地域において、読書活動を推進する人材を育成することができた（3会場／128名受講＜＋33名＞）。また、県内各地で活動する読み聞かせボランティアが一堂に会し、情報交換等を行う交流会を開催することで、ネットワークの構築を図った（年1回開催）。 - 県立図書館司書が学校図書館を訪問して情報提供を行い、希望する図書資料を貸し出したことにより、各校における読書環境の向上や、図書館資料を活用した授業の実施などにつながった（25校訪問＜＋5校＞）。 - 企業や民間団体をパートナーとし、住民が利用しやすい施設に図書コーナーを設置する市町村に対して、図書や本棚の購入費などの初期費用を助成した（能代市ほか9市町村＜＋2市町村＞）。 「第6回ふるさと秋田文学賞」の作品を募集し、応募作132編の中から受賞作4編を収めた作品集を刊行（300部＜±0部＞）の上、県内の図書館等で閲覧や貸出ができるようにした。また、「ふるさと文学と読書のつどい2019」を実施した。（参加者約230名＜△90名＞）		
(2) 良質な芸術・文化体験機会の充実と文化遺産の保存・活用【生涯学習課、文化財保護室】	指標	代表①、成果③
- 各施設で実施できるセカンドスクールの利用の内容について、「利用の手引き」を作成して県内各学校に周知を図り、利用率の向上に努めた。各施設においても、詳しい学習内容のパンフレット作成やホームページの充実を図り、学校ではできない体験活動の提供を行った。 - 博物館、美術館等では4施設（美術館・近代美術館・博物館・農業科学館）合計で353,589名＜△114,867名＞の利用者があった。令和元年度は家族向けの展覧会が少なかったことなどから前年度比では減少したが、「若沖と京の美術」など質の高い展覧会を県民に提供することができた。 「秋田県青少年劇場」を9公演＜△2公演＞（11校参加＜△6校＞）行ったほか、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」を活用し、巡回公演事業を41公演＜＋2公演＞（60校参加＜±0校＞）、芸術家の派遣事業を33公演＜＋25公演＞（19校参加＜＋16校＞）を行い、児童生徒に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供することができた。 「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、関係4道県が協力して課題解決を図りながら、より分かりやすく、説得力を持った推薦書に改訂した結果、令和元年7月に国文化審議会から世界文化遺産推薦候補として選定され、2年1月には、政府からユネスコへ世界遺産候補として推薦された。 - 令和2年2月に、西馬音内や毛馬内の盆踊りを含む「風流踊」が、国文化審議会からユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定され、3月に政府からユネスコへ提案書が提出された。		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	● 代表指標の達成状況については、①「芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合」は「e」判定であり、定量的評価は「E」。 ● 生涯学習支援システムへの登録件数が前年度に比べ18.5%伸びたことに加え、アクセス数が前年度に比べ82.8%伸びており、多様な学びの情報を提供することができている。また、生涯学習講座の内容が、地域の実情に合ったテーマや時宜に沿ったテーマを取り上げ、より充実したことから、地域で活躍できる人材を育成することにつながっている。 ● 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産候補として推薦されたほか、西馬音内や毛馬内の盆踊りを含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定されたことから、観光振興への波及効果が期待されるとともに、文化遺産等の価値の再認識や保存・活用への機運が高まってきている。また、これらについて新聞やテレビで報道されることにより、県民の文化財に対する認識が高まってきている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

● 定量的評価: 代表指標の達成状況から判定する。

「A」: 代表指標が全て「a」、「B」: 代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」: 代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」: 代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」: 代表指標が全て「e」、「N」: 代表指標に「n」を含む

● 定性的評価: 成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価: 定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。					
調査年度		R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	16.1%	14.7%			▲1.4%
	十分 (5点)	1.8%	2.2%			+0.4%
	おおむね十分 (4点)	14.3%	12.5%			▲1.8%
	ふつう (3点)	49.1%	47.5%			▲1.6%
	否定的意見	14.2%	16.4%			+2.2%
	やや不十分 (2点)	10.1%	12.0%			+1.9%
	不十分 (1点)	4.1%	4.4%			+0.3%
	わからない・無回答	20.7%	21.6%			+0.9%
平均点		2.99	2.95			▲0.04
調査結果の認識、取組に関する意見等						
○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.95」で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.7%、「ふつう」は47.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.4%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は62.2%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 ・ いっどこでどんなことが行われているか、中々伝わってこない。今までの周知の仕方が、時代に合っていないのかもしれない。(男性/60歳代/秋田地域) ・ 学校での勉強の他に、子ども達が生涯学習や芸術を学ぶ機会などを定期的に設けていく必要があると思う。そうしていくことで、もっと秋田を大切に好きになる子ども達が増えると思う。(男性/20歳代/秋田地域) ・ 県央のみ機会が多いと思われる、県北、県央、県南で隔年開催するような芸術施策がほしい。(男性/70歳以上/北秋田地域)						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等 により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 学校図書館の読書環境の整備が十分でなく、高校生の多様な読書ニーズに対応できない学校があるため、読書環境に差が生じることが懸念される。 ○ 生涯学習支援システムは、市町村の協力などにより情報の登録件数が大きく増加しているが、システムが旧式であり、高齢者や障害者などにとっては使いにくいデザインになっている。 ● 学校での勉強の他に、子ども達が生涯学習や芸術を学ぶ機会などを定期的に設けていく必要があると思う。そうしていくことで、もっと秋田を大切に好きになる子ども達が増えると思う。(県民意識調査より)	○ 県立図書館で整備している図書セットの貸出しや、個別の学校図書館訪問による情報提供を多くの学校に行うことにより、高校生が本に親しむ環境の充実に支援する。 ○ 高齢者や障害者など、誰でも簡単に生涯学習情報が得られるよう、ユニバーサルデザインの研究やシステムの改善に努める。 ● 美術館・博物館等において、秋田の人的・物的資源を素材とする子ども対象の教室やワークショップ等の充実を図っていく。また、子どもたちの参加意欲を高められるよう、周知の方法を工夫する。
(2)	○ 校外学習を含む学校行事の精選・見直しが加速しており、セカンドスクールの利用が大幅に減少していることで、小・中学生が文化・芸術に触れ、豊かな感性を育む機会が減少している。 ○ 歴史・文化を活かしたまちづくりに向け、地域の個々の文化財を有機的に関連する文化財群として捉えた保存・活用ができていない。 ○ 縄文遺跡群の世界遺産登録や民俗芸能「風流踊」の無形文化遺産登録に向け、地域住民が保存や活用に積極的に参加する仕組みが不足している。	○ 引き続き学校への広報や出前授業の積極的な実施に努めるとともに、中長期的な視点も踏まえて学校のニーズを把握し、体験メニューの見直しと周知の工夫を図っていく。 ○ 令和2年度末までに秋田県文化財保存活用大綱を策定し、地域に所在する様々な文化財を関連づけて、地域の歴史・文化を活かしたまちづくりに向けた方向性を示す。 ○ 世界遺産、無形文化遺産への登録に向けた取組を推進するとともに、地域住民の愛着と誇りの醸成、ボランティアガイドの育成等、登録後を見据えた受入体制の強化についても進めていく。

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「D」をもって妥当とする。